

## 平成28年度「TODAI 倶楽部」実施報告書

進路指導部

- 1 日 時 平成28年6月17日（金）
- 2 場 所 東京大学駒場地区キャンパス
- 3 講 師 東京大学大学院総合文化研究科 松田良一先生「死後の生物学」
- 4 参加者 22名（1年生20名、2年生2名）
- 5 生徒感想

○読書がヒトのさらなる進化につながるという話は、自分の読書に対する見方を変えたと思う。

○講座内容は質が高く、全国の高校生がネットから直接質問していて、「自分はなんて小さな世界に  
いるのだろう……」と思いました。約900日後、センター試験を受けます。強敵は日本中に  
たくさんいるのだと思いました。これは大きな気づきだと思います。これから精進していきます。

○他校の生徒は、熱心に質問したり、考えられないほどのスピードで手を動かしてメモを取ったり  
していた。人間として、受講していない人に比べて成長できたと思いました。

○講師の方は、限られた時間の中で、一人ひとりの質問に答えていて、とても有意義な時間だった。

○他の高校生の質問を聞いて、自分と同年くらいの人たちが、自分よりも多くの疑問を持ち、理  
解した上で、瞬時に質問を出していたので、自分もただ受け身になって知識を得るのではなく、  
常に多くの考えを持って授業に臨んでいこうと思った。

○渡邊博文先輩のお話の中に出てきた、「東大生のほとんどが中高一貫校」という事実について、  
中学校までに高1をさらっているような、もうとにかくすごいところと戦っている、という意識  
を持って過ごすことが大切だという考えは、私の中にありませんでした。危ない。このまま卒業  
するつもりでした。今後は、勉強頑張ります。

○大学生の方々を見ていると、どの人も生き生きとしてかっこいいと思いました。こんな風に大学  
生として充実した生活を送る未来のために、今できることをできる限り取り組んでいきたいと思  
いました。

### 6 引率者報告

平日は生物学の教授、土日は住職という、まったく異なる視点から生と死に向かい合う講師の話  
は、とにかく深く、おもしろかった。そして、早々と文系・理系に分かれて狭い枠で考えることや、  
遺伝子よりももっとすばらしい書物という伝達手段を活用しないことがいかに馬鹿げているか、と  
いうメッセージは、学ぶことの意味や大切さを痛烈に教えてくれた。

また、本校卒業生の話からは、中高一貫校に負けない努力や、大学生になっても学び続ける謙虚  
さが必要であることを伝えられた他、勉強だけでなく部活動や学校行事など、今しかできないこと  
すべてに全力で取り組んでほしいという願いを受け取った。

非常に濃密な時間を過ごせただろう。ここで得た刺激を胸に、日々を大切に過ごしてほしい。  
非常に濃密な時間を過ごせただろう。ここで得た刺激を胸に、日々を大切に過ごしてほしい。



## 平成28年度「TODAI 倶楽部」実施報告書

進路指導部

- 1 日 時 平成28年6月24日（金）
- 2 場 所 東京大学駒場地区キャンパス
- 3 講 師 東京大学大学院総合文化研究科 石田英敬先生「メディアを考える」
- 4 参加者 11名（1年生8名，2年生3名）
- 5 生徒感想

○講義を受けている生徒は皆聞き入っていて、質問の内容は私にはまったく理解できなかったもので、びっくりした。将来的には、今日一緒に聞いた人たちと共に仕事をするというとても厳しい未来が待っていると痛感したし、「竜一なんて狭いんだなあ」と思った。

○今世界で起こっているさまざまな問題はしょせん洞窟の中での争いなのかもしれないと思えて、少し恐ろしく、興味深くも思いました。

○たくさんの経験をするのが大切なのだというメッセージが心に響きました。大学や将来につながらせるためにも、さまざまな本を読んで知識を増やしたいです。

○ときどき勉強がいやになることがあったけれど、学問は、物事の本質・真実を知るためにとても重要なことなのだと考え直すことができた。

○私たちの時間はたくさんのメディアに奪い合われている。時間というものが一番足りていないという話になるほどと思った。LINEなどのメディアの使用は節度を持って行おうと反省した。

○自分も洞窟（＝家）の中で誰かが写す影（＝テレビ）を真実だと思って生きていたので、まさに洞窟の比喩の通りだなと思いました。勉強をし、外に出て、真実を見てみたいです。

○一緒に受講した他校生の中には、しっかりした質問をする人がたくさんいて、自分自身の考えを含めた上で、さらにどうなのかということを先生に質問していて、すごいなあと思いました。

○今回の講座の収穫は、質問をしている同じ高校生を見て大きな差を感じたことと、縄をほどいて自由になるために学問を突き詰めることの重要性を感じたことかなと思う。

### 6 引率者報告

メディアというものを、アナログからデジタル、そして未来まで、形態や時代を超えて縦横無尽に語り尽くす講義に圧倒されたことだろう。大学教授は、本当にすごい。プラトンの「洞窟の比喩」は、テレビだけで世界を知った気になっている現代人の戒めだけでなく、竜ヶ崎一高という洞窟の中で過ごして、全国トップレベルの高校生たちを知らないでいた竜一生への戒めにもなった。

茨城から出て、東京で見た広大な世界。こういう人たちと全国模試や大学入試で戦うのである。それでも、世界にはもっとすごい人たちがいるのである。

誰かが作ったスマホやゲームに振り回されるのではなく、現代社会の縄をほどいて、学びたいという強い欲求を抱いて、授業や家庭学習に励んでいこう。

